

2018年ブラジリア映画祭
山田大使挨拶（代読）（2018年10月17日）19:00～

- みなさん、こんばんは。山田大使が所用のため出席できませんので、大使から預かってまいりました祝辞を私の方から代読させていただきます。
- 日本人伯移住110周年を迎える今年、「2018年ブラジリア日本映画祭」をこのように盛大に開催できることを大変嬉しく思います。昨年に引き続き、素晴らしい会場を提供して下さったセルジオ・モリコーニ・コーディネーターをはじめ、シネ・ブラジリアの皆様から心から感謝申し上げます。
- 今年は6日間の日程で、時代劇からドラマ、コメディとバラエティーに富んだラインナップとなっております。本日上映の『花のあと』は、20世紀を代表する日本人作家の1人である藤沢周平の作品が原作で、江戸時代の人々の恋愛事情を含む生活の様子が描かれています。
- この他にも、第二次大戦直後の日本を描き、モントリオール世界映画祭で最優秀監督賞を受賞した作品、現代の日本を描いた作品が2つ、シェークスピアの原作『真夏の夜の夢』を沖縄を舞台に翻案した作品、人気アニメも一本含まれています。是非本日だけでなく、明日以降もここシネ・ブラジリアに足を運んで頂き、映画を通して日本文化や日本映画の多様性を楽しんでいただければと思います。
- 本映画祭が成功を大きな収め、沢山の方々に少しでも日本文化に触れて頂くとともに、日伯の文化交流の更なる発展を祈念しまして私からの挨拶とさせていただきます。有り難うございました。

（了）